



## CONTENTS

- 活動報告・各種会議議事録
- 第40回通常総会
- 日本農薬学会設立40周年記念行事
- 会員異動
- 学会関連カレンダー
- 学会主催会議等の詳細
- 日本農薬学会設立40周年記念事業への寄付のご報告とお礼

### 平成26年度第5回常任評議員会議事録

日 時：平成27年2月7日（土）12:00～19:00

場 所：日本植物防疫協会 地下会議室

出席者：会長，副会長，常任評議員，第40回記念大会組織委員長 計15名

議 事：

I. 平成26年度第4回常任評議員会議事録について確認した。

II. 経過報告および議事

#### 1. 財務関係

- ・平成26年度収支について報告があり，収支計算書の内容を確認した。
- ・寄付事業の進捗について報告があった。
- ・平成26年度予算案が提示され，その内容を検討した。

#### 2. 編集委員会

- ・農薬誌第40巻1号の掲載予定について報告があった。
- ・平成26年度の投稿審査状況について報告があった。
- ・協賛した国際学会のミニレビューを掲載することを検討した。
- ・40周年記念行事の学会誌への掲載について検討した。

#### 3. 環境委員会

- ・平成26年度の活動について報告があった。

- ・平成27年度の活動計画について説明があった。

- ・農薬理解促進WGの企画によるポータルサイト構築は40周年記念事業の一環として行うことが承認された。

#### 4. 将来計画委員会

- ・活動状況について説明があった。

#### 5. ホームページ委員会

- ・活動状況について報告があった。

#### 6. 植物保護科学連合

- ・平成26年度の日本学術会議シンポジウム（12月6日開催）では，当学会からの推薦で三芳秀人氏（京都大学）が講演したことが報告された。

#### 7. 農学会関連

- ・日本農学会の平成26年度第2回運営委員会（12月26日）および平成27年度第1回評議員会（1月23日）の報告があった。

- ・農学賞および農学進歩賞の推薦方法について検討した。

#### 8. 学術小集会関係

- ・平成26年度活動報告・収支報告について説明があり，平成27年度活動補助金申請について承認された。

#### 9. 外部監査の導入について

- ・会計監査について外部監査の導入を検討し，平成27年度から試験的に導入することが承認された。

#### 10. 研究会の協賛について

- ・平成27年6月12日（金）に日本薬学会長井記念館（東京都渋谷区）で開催予定の構造活性フォーラム2015を協賛することを承認した。

#### 11. 次期役員・委員について

- ・次期の評議員，終身会員，常任評議員について検討した。
- ・次期の将来計画委員長，学会賞選考委員について検討した。

#### 12. 第40回記念大会関係

- ・第40回大会の評議員会・総会・記念式典等のスケジュール・内容・会場・招待者等について確認した。
- ・第40回大会の総会資料を検討した。

13. 第41回大会関係
    - ・第41回大会は島根大学にて2016年3月17日(木)～19日(土)の日程で開催される予定である旨の説明があった。
  14. 入退会の報告(平成26年11月16日～平成27年1月15日)
    - ・入退会が承認された。入会は正会員20名、学生会員6名、海外会員2名。退会は名誉会員1名、終身会員1名、正会員33名、団体会員1件。
  15. その他
    - ・植物化学調節学会設立50周年を記念した学会誌掲載用記事の執筆依頼について検討し、受諾を決定した。
- III. 平成27年度農薬科学研究奨励金交付者選考二次審査
- ・平成27年度農薬科学研究奨励金(平成26年11月28日応募締切)への10件の申請に対する一次審査結果について報告があった。
  - ・常任評議員会にて二次審査を実施し、3件に交付を行うことを決定した。

#### 第41回編集委員会議事録

日 時：平成27年3月17日(火) 14:45～16:15  
会 場：玉川大学 視聴覚センター B-101  
出席者：33名

議 事：

- (1) 平成26年以降の掲載状況、投稿審査状況
  - 1) 39巻の掲載状況を確認した。(総会資料参照)
  - 2) 2014年には英文誌(JPS)に102編の投稿があり、国内から20編、国外から82編(中国、インド、イランを含む19か国)であった。その内訳は、報文(84編)、速報(1編)、ノート(14編)、技術資料(2編)、総説(1編)で、このうち掲載可が22編、審査中が8編である(2015.3.14現在)。また、和文誌(農薬誌)には6編(報文4編、技術資料1編、ノート1編)の投稿があり、うち4編が審査中である。
- (2) ダウンロード状況  
インターネットによる学会HPへのアクセス数は、Topへのアクセスが1011件と例年より低かったにもかかわらず、論文pdfのダウンロード数は昨年に引き続き高く5040件であった。なお、論文pdfの過去5年間の平均ダウンロード数は3870件であった。
- (3) 電子ジャーナル、電子投稿システムに関して  
JPSのJ-Stageでの公開形式は、39巻よりFull Text HTMLであり、また農薬誌はJPSとは異なる新たなウェブサイトとしてJ-Stageで公開している。EM電子

投稿システムでの剽窃チェックツール(Cross Check)やdiscussion機能の活用、査読後の流れ、印刷に向けての作業に関する説明があった。

- (4) 読み物企画に関して  
今後の掲載が予定されている解説、ミニレビュー、読み物シリーズ(各地の生産現場から、農薬に係る法律・入門編)について説明があった。
- (5) 新委員の紹介  
安藤委員長より、次期の新委員の紹介があった(敬称略)。委員長 夏目雅裕;担当編集委員 高木和弘(環境関係)、塩月孝博(殺虫剤関係)、藤村 真(殺菌剤関係)、米山弘一(除草剤関係);退任:桑野栄一、宮本 徹、百町満朗、須恵雅之、新任:伊藤晋作、梅村賢司。
- (6) 将来構想  
冊子体の発送は希望者のみとすること、さらには冊子体の発送回数の削減あるいは紙媒体の廃止の可能性について検討することとした。
- (7) その他
  - 1) 論文の査読と英文総説の執筆者や読み物企画の提案に関するお願いがあった。
  - 2) カラーページの掲載料、受賞論文のスタイル変更、題目審査の簡略化、引用文献の形式の検討、オープンアクセスジャーナル化等の事項について議論した。

#### 第41回評議員会議事録

日 時：平成27年3月17日(火) 16:30～17:50  
場 所：玉川学園 視聴覚センター 104  
出席者：浅見会長、米山副会長、三富副会長、與語副会長、宮本監事、内田監事、評議員43名、委任状29通(合計72名)  
出席者が定足数に達していることを確認したのちに会則第29条に則り浅見会長を議長として議事を進めた。

議 事：

1. 平成26年度会務報告
  - ・第40回通常総会資料および第41回評議員会資料に基づき、総務・編集・渉外・学会賞選考および役員選挙の各項目について委員長または担当常任評議員が報告を行い、質疑を受けたのち、異議なく承認された。
2. 平成26年度会計報告
  - ・第40回通常総会資料に基づき、収支決算について担当常任評議員が報告を行ったのち、宮本監事から収支決算の内容が的確であったとの会計監査結果が

報告された。以上の報告について質疑を受けたのち、承認された。

3. 平成27年度事業計画
    - ・事業計画案および収支予算案について担当常任評議員が説明を行い、質疑を受けたのち、原案の通り承認された。
  4. 会長指名による役員を選出について
    - ・会長より指名された副会長2名および評議員20名が承認された。また、会長より顧問として指名を受けた本山直樹氏、山本廣基氏が承認された。
  5. 終身会員の推薦について
    - ・終身会員として川端成彬氏、倉橋良雄氏、辻孝三氏が推薦され、承認された。
  6. 規定の改定
    - ・日本農薬学会役員選出規定の改定について浅見会長より説明され、原案通り承認された。
  7. 第41回記念大会について
    - ・第41回大会を平成28年3月17～19日に島根大学（島根県松江市）において開催することが承認された。
  8. その他
    - ・尾添第41回大会委員長より挨拶があった。
    - ・米山次期会長より挨拶と役員紹介があった。
- 追記. 規定の改定について
- ・メール審議（平成27年3月23～27日）において、日本農薬学会基金規定の改訂について浅見会長より説明され、原案通り承認された。

### 第40回通常総会議事録

平成27年3月18日（水）午前9時00分より、玉川学園講堂（東京都町田市）において、第40回通常総会が開催された。会則第24条に則り浅見会長を議長として議事を進めた。

議 事：

1. 平成26年度事業報告および決算報告
  - ・総務・編集・渉外・学会賞選考の各項目について各担当者が報告を行った。次いで、収支決算について会計担当者が報告を行ったのち、内田監事から収支決算の内容が的確であったとの会計監査結果が報告された。以上の報告について質疑を受けたのち、異議なく承認された。
2. 平成27年度事業計画および収支予算について
  - ・事業計画案および収支予算案について各担当者が説明を行い、質疑を受けたのち、原案の通り承認された。

3. 終身会員の推薦について
  - ・第41回評議員会において終身会員3名が承認された旨報告があった。
4. 顧問の推薦について
  - ・評議員会において顧問として本山直樹氏、山本廣基氏が承認されたことが報告された。
5. 第41回大会について
  - ・第41回大会を平成28年3月17～19日に島根大学（島根県松江市）において開催することが承認された。
6. その他
  - ・浅見会長より、設立40周年記念事業への寄付に対するお礼および今後の使途についての説明があった。

資料：

#### I 会務報告

##### 1. 総務関係報告

###### 1) 会員異動（平成26.1.1～平成26.12.31）

	平成25年	平成26年12月31日現在		増 減 (△減)	
	12月31日 現在	国 内	国 外		計
名誉会員	22	18	2	20	△2
終身会員	52	51	0	51	△1
正 会 員	1139	1103	19	1122	△17 <sup>a</sup>
学生会員	44	50	0	50	6 <sup>b</sup>
維持会員	38	38	0	38	0
(口数)	(75口)	(75口)		(75口)	0口
団体会員	87	83	0	83	△4
購読会員	37	10	26	36	△1

<sup>a</sup>入会者：82名、退会者：65名、会費未納者：34名

<sup>b</sup>入会者：19名、退会者：4名、会費未納者：9名

##### 2) 会誌の発行

発行および頒布部数（平成26.1.1～平成26.12.31）

誌-巻-号	農薬誌-39-1	JPS-39-1, 2	農薬誌-39-2	JPS-39-3, 4
発行部数	1550	1550	1550	1550
会員頒布	1370	1370	1370	1370
一般購読	36	36	36	36
寄 贈	25	25	25	25
広告・PR	10	10	10	10
事務用	2	2	2	2
保存用	5	5	5	5
計	1448	1448	1448	1448
残存部数	102	102	102	102

### 3) 日本農薬学会第39回大会

- (1) 第39回大会：平成26年3月13日（木）に京都大学・百周年時計台記念館において、総会、学会賞授賞式、受賞講演（奨励賞2題、業績賞（研究）1題、業績賞（技術）2題）、特別講演会（2題）が行われた。翌3月14日（金）～15日（土）には京都大学農学部において、一般講演（117題）、シンポジウム（2件）、ランチョンセミナー（6件）が行われた。参加者総数は約530名であった。
- (2) 第39回通常総会：平成25年度会務報告、会計報告、会計監査報告および終身会員の推薦の報告が行われ、平成25年度事業報告および決算、平成26年度事業計画および収支予算（案）、日本農薬学会大会第40回大会（平成27年、東京都町田市、玉川大学）の開催が承認された。また、平成26年度日本農薬学会賞（奨励賞、業績賞）および論文賞の授賞式が行われた。（26.3.13）

### 4) 役員会の開催

- (1) 第40回評議員会：平成25年度会務報告および会計報告が行われ、平成26年度事業計画および収支予算（案）、日本農薬学会細則第10条の改定、終身会員、日本農薬学会大会第40回大会（平成27年、東京都町田市 玉川大学）の開催が承認された。（26.3.12）
- (2) 常任評議員会：6回（26.5.17, 7.26, 9.6, 11.29, 27.2.7, 3.17）

### 5) 専門委員会など

- (1) 第41回編集委員会：（27.3.17）
- (2) 常任編集委員会：4回 [26.3.30～（メール会議）、8.2, 10.27～（メール会議）、27.1.13～（メール会議）]
- (3) 日本農薬学会賞受賞者選考委員会：1回（26.10.4）、メール会議複数回
- (4) 財務委員会：
  1. 財務に関する会議をメールにて数回行った。
  2. 第13回IUPAC農薬化学国際会議への出席者に対する渡航補助の選考を行った。なお、今回の渡航補助は学会設立40周年記念事業寄付金より支出した。
- (5) 第40回大会組織委員会：2回（26.8.7, 27.1.24）
- (6) 将来計画委員会：メール会議数回
- (7) 環境委員会：2回（26.5.24, 12.23）、農薬理解促進ワーキンググループ4回（26.5.18, 8.23, 11.15, 12.23）
- (8) HP委員会：メール会議数回
- (9) 農薬科学研究補助金交付者審査会議：一次審査（26.12.15～27.1.23メール会議）、二次審査（27.2.7）
- (10) 学術小集会委員長と常任評議員との懇談会：1回（26.9.6）
- (11) 三学会長懇談会：1回（26.11.17）
- (12) 日本植物防疫協会と三学会との懇談会：1回（26.11.17）
- (13) 選挙管理委員会：1回（26.11.8）、メール会議数回

### 6) 技術士育成推進委員会

- 1回の委員会が開催された（26.10.22）。

## 2. 編集関係報告

### 1) 「日本農薬学会誌」掲載原稿数および頁数

巻号	掲 載 原 稿 数								計	頁 数
	投稿論文	解説	受賞論文	実験技術 講座	ミニ レビュー	シンポジア	読み物 シリーズ	その他		
39-1	2 <sup>a</sup>			1	10				16	101 <sup>c</sup>
39-2		1	6	1	2		6		21	117 <sup>e</sup>
合 計	2	1	6	2	12	0	6	8	37	218

a: 報文.

b: 英文編掲載論文和文要旨2編, エラータ1編.

c: この他に大会案内を掲載 (24頁).

d: 英文編掲載論文和文要旨2編, 追悼文1編, 2013年投稿論文審査員へのお礼1編.

e: この他に会則等を掲載 (17頁).

### 2) 「Journal of Pesticide Science」掲載原稿数および頁数

巻号	掲 載 原 稿 数							計	頁 数	
	総説	報文	短報	速報	技術資料	受賞論文	その他			
39-1		4	2		2			1 <sup>a</sup>	9	53
39-2	1	6						1 <sup>b</sup>	8	61 (+5) <sup>a</sup>
39-3		6	3			5			14	66
39-4		1	1					4 <sup>c</sup>	6	25 (+5) <sup>b</sup>
合 計	1	17	6		2	5		6	37	205 (+10)

a: Erratum.

b: Instructions for authors.

c: Contents of Volume 39 (JPSおよび農薬誌), Keyword Index, Author Index, Instructions for authors.

### 3) 論文賞

候補1件を, 学会賞受賞者選考委員会に推薦した.

### 4) 投稿細則等の一部改正

編集上の利便さを高めるために, 投稿細則と Instructions for Authorsの一部を改正した.

### 5) その他

- (1) 受付論文数 (2014年): 和文6編, 英文102編 (内, 国内からの投稿20編)
- (2) 学会誌インパクトファクター (過去5年間の平均値): 0.685
- (3) 電子ジャーナル掲載論文の月平均ダウンロード数: 約5,000件

### 3. 渉外・企画関係報告

#### 1) セミナーの開催

- (1) 残留農薬分析セミナーの開催: 近畿大学 (奈良県奈良市, 26.9.12), 明治薬科大学剛堂会館 (東京都千代田区, 26.11.12).

#### 2) 農業科学研究補助

農業科学研究に対する研究補助金を平成26年度は以下の2件の研究に対し交付した.

- (1) 柴田哲男氏 (名古屋工業大学大学院工学研究科): 農薬基幹物質の価格破壊: フルオロホルムのC-H活性化とトリフルオロメチル化反応の開発
- (2) 乾 秀之氏 (神戸大学自然科学系先端融合研究環境遺伝子実験センター): 農薬などの脂溶性汚染物質により引き起こされるウリ科作物の汚染メカニズムの解明

### 3) 学術小集会

- (1) 農薬残留分析研究会 (第37回): 仙台国際センター (宮城県仙台市) で開催。「残留農薬分析の現状について」をテーマにシンポジウムを開催した。シンポジウム講演5題, 特別講演1題, ポスター22題の発表が行われた。参加者は約243名であった。(26.10.16 ~ 17)
- (2) 農薬製剤・施用法研究会 (第34回): 神戸国際会議場国際会議室 (兵庫県神戸市) で開催。特別講演4題, 技術研究発表8題, フォーラム1件, ポスター12件の発表が行われた。参加者は309名であった。(26.9.11 ~ 12)
- (3) 農薬環境科学研究会 (第32回): ホテルアンビア松風閣 (静岡県焼津市) で開催。「陸域生態系と農薬」をテーマとして, 1題の特別講演, 7題の講演, ならびに見学会が行われた。参加者は84名であった。(26.11.20 ~ 21)
- (4) 農薬生物活性研究会 (第31回): 東京農業大学 (東京都世田谷区) で開催。「殺菌剤編」, 「殺虫剤編」および「除草剤編」の3部構成として, 合計9題の講演が行われた。参加者は153名であった。(26.4.25)
- (5) 農薬デザイン研究会 (第29回): ホテルニューアカオ (静岡県熱海市) で開催。「農薬デザインの新たな領域を目指して」をテーマに6題の講演が行われたほか, 20題のポスター発表が行われた。参加者は106名であった。(26.11.6 ~ 7)
- (6) 農薬レギュラトリーサイエンス研究会 (第22回): 東京農業大学 (東京都世田谷区) にて「農薬散布区への散布後の立ち入り及び作業曝露を考える」をテーマにリスク評価・リスク管理の観点から幅広く討論した。参加者は148名であった。(26.12.8)
- (7) 農薬バイオサイエンス研究会 (第11回): 京都大学 (京都府京都市) で, 第39回大会とシンポジウムを共催した。「生命と農薬科学: ターゲットを知る」をテーマとして5題の講演が行われた。(26.3.15)
- (8) 農薬バイオサイエンス研究会 (第12回): 神戸大学 (兵庫県神戸市) で開催。「生存戦略を支配する分子メカニズム~農薬科学のイノベーションを目指して」をテーマとして4題の講演が行われた。参加者は31名であった。(26.12.5)

### 4) 学術小集会以外の研究会等

- (1) 第6回環境保全型農業シンポジウム (後援): 東京都墨田区 (26.3.11)
- (2) 第10回幼若ホルモン国際会議 (協賛): 茨城県つくば市 (26.6.9 ~ 6.13)
- (3) 構造活性フォーラム2014 (協賛): 大阪府吹田市

(26.6.27)

- (4) 第14回国際ダニ学会議 (後援): 京都府京都市 (26.7.14 ~ 7.18)
- (5) 日本学術会議公開シンポジウム「昆虫における刺激の受容とその反応」 (日本学術会議農学委員会応用昆虫学分科会, 日本昆虫科学連合 主催): 東京都港区 (26.7.26)
- (6) 第13回 IUPAC 農薬化学国際会議: 米国, サンフランシスコ (26.8.10 ~ 8.14)
- (7) 第12回国際シトクロム P450 シンポジウム (後援): 京都府京都市 (26.9.24 ~ 9.28)
- (8) 第29回報農会シンポジウム (協賛): 東京都北区 (26.9.30)
- (9) 平成26年度日本農学会シンポジウム: 東京都文京区 (26.10.4)
- (10) 第31回製剤と粒子設計シンポジウム (協賛): 福岡県福岡市 (26.10.23 ~ 10.24)
- (11) 第11回エコバランス国際会議 (協賛): 茨城県つくば市 (26.10.27 ~ 10.30)
- (12) 日本学術会議公開シンポジウム「植物保護における分類情報の重要性」 (日本学術会議農学委員会植物保護科学分科会, 植物保護科学連合 主催): 東京都文京区 (26.12.6)
- (13) 日本分析化学会関東支部 機器分析講習会 第3コース (協賛): 東京都千代田区 (26.11.4 ~ 11.5)
- (14) 第7回環境保全型農業シンポジウムおよび第18回日本バイオリジカルコントロール協議会講演会共催シンポジウム (後援): 熊本県熊本市 (26.11.6 ~ 11.7)
- (15) 第42回構造活性相関シンポジウム (後援): 熊本県熊本市 (26.11.13 ~ 11.14)
- (16) International Conference of Asian Environmental Chemistry 2014 (後援): タイ, バンコク (26.11.24 ~ 11.26)

### 5) 第13回 IUPAC 農薬化学国際会議参加者に対する渡航費補助

第13回 IUPAC 農薬化学国際会議参加者に対する渡航費補助金を16名に交付した。

(15件20万円, 1件15万円)。

交付者は, 的場好英, 劉 根炎, 森本正則, 徳永恵津子, 田中啓司, 西脇 寿, 長岡ひかる, DANG Quoc Thuyet, 藤原敏美, 永崎果鈴, 古谷章悟, 中谷有里, 石田実希, 南沙紀, Mohammad Mostafizur, 葛西真治であった。

### 4. 日本農薬学会賞受賞者選考委員会報告

#### 1) 奨励賞, 業績賞 (研究, 技術)

評議員ならびに学術小集会委員長より推薦された奨励賞3

課題, 業績賞(研究)1課題, 業績賞(技術)4課題について慎重公正なる選考を行った結果, 次の5課題を各賞の候補と決定した.

【奨励賞】

野下浩二氏(秋田県立大学生物資源科学部)

「カメムシ臭気成分の化学生態学的研究」

渡辺文太氏(京都大学化学研究所)

「昆虫および植物ステロイドホルモンの構造活性相関」

【業績賞(研究)】

中尾俊史氏(三井化学アグロ株式会社)

「昆虫RDL GABA受容体の構造と薬剤感受性に関する研究」

【業績賞(技術)】

上野英二氏(愛知県衛生研究所)

「農産物中残留農薬の多成分系統分析法の開発及び普及」

藤田茂樹氏 平岡 学氏 池内利祐氏 小林方美氏(クミアイ化学工業株式会社)

「新規水稻用水面施用剤「豆つぶ剤」の開発」

2) 論文賞

編集委員会より推薦された論文について慎重公正なる審査を行い, 候補を決定した.

「Effects of organic carbon quality on the sorption behavior of pesticides in Japanese soils」

Yutaka MOTOKI, Takashi IWAFUNE, Nobuyasu SEIKE, Takashi OTANI and Maki ASANO (National Institute for Agro-Environmental Sciences, Food and Agricultural Materials Inspection Center, Agricultural Chemicals Inspection Station) Vol. 39, No. 2, pp. 105-114 (2014)

3) 功労賞

会長より推薦された以下の5氏を功労賞の候補と決定した.

大川秀郎氏(神戸大学)

渋谷成美氏(全国農業協同組合連合会)

辻 孝三氏(製剤技研)

上杉康彦氏(農業環境技術研究所)

若林 攻氏(玉川大学)

括弧内は代表的な所属機関.

5. 平成26年度日本農薬学会奨励賞, 業績賞, 論文賞および功労賞受賞者の決定

学会賞受賞者選考委員会で選考された日本農薬学会奨励賞, 業績賞, 論文賞および功労賞各候補について, 評議員の投票により授賞が決定した.

6. 平成27・28年度日本農薬学会役員選挙

日本農薬学会選挙管理委員会の管理のもと平成27・28年度日本農薬学会役員選挙を実施し, 当選者を決定した. 投票率は29.0%であった. 会長から推薦され評議員会において承認された役員を加え, 平成27・28年度日本農薬学会会長, 副会長, 監事および評議員が決定した.

II 会計報告

収支計算書

平成26年1月1日から平成26年12月31日まで

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
会費収入	17,778,000	17,711,718	66,282	
正会員会費収入	8,872,000	8,792,000	80,000	
学生会員会費収入	96,000	116,000	△ 20,000	会員増
海外会員会費収入	110,000	69,718	40,282	
団体会員会費収入	830,000	840,000	△ 10,000	
購読会員会費収入	370,000	394,000	△ 24,000	書店注文増
維持会員会費収入	7,500,000	7,500,000	0	
会報刊行収入	1,210,000	1,205,453	4,547	
頒布収入	50,000	60,000	△ 10,000	
広告料収入	160,000	230,000	△ 70,000	英文誌広告増
著者負担金収入	1,000,000	915,453	84,547	
事業収入	19,208,000	23,117,824	△ 3,909,824	
大会運営収入	5,600,000	7,133,557	△ 1,533,557	企業展示等増
学術小集会運営収入	12,955,000	15,037,767	△ 2,082,767	7研究会合計
環境委員会 収入	653,000	946,500	△ 293,500	
40周年記念事業収入	0	4,937,000	△ 4,937,000	寄付金
雑収入	108,000	255,639	△ 147,639	
預金利息収入	8,000	7,699	301	
雑収入	100,000	247,940	△ 147,940	著作権使用増
事業活動収入計	38,304,000	47,227,634	△ 8,923,634	
2. 事業活動支出				
会報刊行費支出	9,710,000	8,053,922	1,656,078	
旅費交通費支出	100,000	39,940	60,060	
通信運搬費支出	10,000	6,706	3,294	
消耗品費支出	100,000	125,739	△ 25,739	
印刷製本費支出	7,000,000	6,106,456	893,544	和・英別冊化
編集費支出	1,800,000	1,270,128	529,872	
学会誌送料支出	700,000	504,953	195,047	
総会・大会費支出	6,450,000	5,868,216	581,784	
学術小集会費支出	13,908,000	15,401,378	△ 1,493,378	7研究会合計
環境委員会支出	867,000	770,446	96,554	
HP管理費支出	1,360,000	1,142,540	217,460	
学会賞関係費支出	500,000	476,380	23,620	
学術交流費支出	400,000	248,850	151,150	拋出金減
国際学術交流費支出	3,000,000	0	3,000,000	
農業科学研究奨励金支出	1,000,000	1,000,000	0	(旧) 試験研究補助金
選挙管理費支出	200,000	270,000	△ 70,000	改選
事業運営費支出	1,300,000	1,409,924	△ 109,924	
会議費支出	500,000	683,544	△ 183,544	大会会議費込
旅費交通費支出	800,000	726,380	73,620	
管理費支出	4,484,000	4,199,535	284,465	
旅費交通費支出	100,000	117,100	△ 17,100	
通信運搬費支出	400,000	296,017	103,983	
消耗品費支出	300,000	102,349	197,651	
事務管理費支出	3,334,000	3,334,000	0	
印刷費支出	50,000	42,000	8,000	
雑支出	300,000	308,069	△ 8,069	
40周年記念事業支出	0	3,150,000	△ 3,150,000	寄付金 IUPAC渡航費



(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
事業活動支出計	43,179,000	41,991,191	1,187,809	
事業活動収支差額	△ 4,875,000	5,236,443	△ 10,111,443	
Ⅱ 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
特定資産取崩収入	1,500,000	0	1,500,000	取崩なし
国際学術交流基金取崩収入	1,500,000	0	1,500,000	取崩なし
投資活動収入計	1,500,000	0	1,500,000	
2. 投資活動支出				
特定資産取得支出	0	4,787,000	△ 4,787,000	
国際学術交流基金取得支出	0	3,000,000	△ 3,000,000	国際学術交流費分
40周年記念事業基金 取得支出	0	1,787,000	△ 1,787,000	寄付金 残金
投資活動支出計	0	4,787,000	△ 4,787,000	
投資活動収支差額	1,500,000	△ 4,787,000	6,287,000	
Ⅲ 財務活動収支の部				
当期収支差額	△ 3,375,000	449,443	△ 3,824,443	
前期繰越収支差額	4,727,459	4,727,459	0	
次期繰越収支差額	1,352,459	5,176,902	△ 3,824,443	

### 収支計算書に対する注記

#### 1. 資金の範囲について

資金の範囲には、現金預金、未収金、仮払金、未払金、前受金及び預り金を含めている。

なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

#### 2. 次期繰越収支差額に含まれる資産および負債の内訳

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	9,420,220	9,267,988
未収金	1,097,947	1,401,081
仮払金	1,490,812	988,855
合 計	12,008,979	11,657,924
未払金	864,364	0
前受金	6,417,156	6,481,022
預り金	0	0
合 計	7,281,520	6,481,022
次期繰越収支差額	4,727,459	5,176,902

貸借対照表

平成26年12月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	9,267,988	9,420,220	△ 152,232
現金	34,376	395,688	△ 361,312
普通預金	8,481,033	7,126,420	1,354,613
振替貯金	752,579	1,898,112	△ 1,145,533
未収金	1,401,081	1,097,947	303,134
仮払金	988,855	1,490,812	△ 501,957
流動資産合計	11,657,924	12,008,979	△ 351,055
2. 固定資産			
特定資産			
積立調整基金	13,224,379	13,224,379	0
国際学術交流基金	16,885,042	13,885,042	3,000,000
寄付基金	7,764,117	7,764,117	0
40周年記念事業基金	1,787,000	0	1,787,000
特定資産合計	39,660,538	34,873,538	4,787,000
固定資産合計	39,660,538	34,873,538	4,787,000
資産合計	51,318,462	46,882,517	4,435,945
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	0	864,364	△ 864,364
前受金	6,481,022	6,417,156	63,866
流動負債合計	6,481,022	7,281,520	△ 800,498
負債合計	6,481,022	7,281,520	△ 800,498
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産	44,837,440	39,600,997	5,236,443
正味財産合計	44,837,440	39,600,997	5,236,443
負債及び正味財産合計	51,318,462	46,882,517	4,435,945

正味財産増減計算書

平成26年1月1日から平成26年12月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	17,711,718	18,094,438	△ 382,720
正会員会費	8,792,000	9,192,000	△ 400,000
学生会員会費	116,000	96,000	20,000
海外会員会費	69,718	108,938	△ 39,220
団体会員会費	840,000	875,000	△ 35,000
講読会員会費	394,000	322,500	71,500
維持会員会費	7,500,000	7,500,000	0
会報刊行収益	1,205,453	1,251,164	△ 45,711
頒布収益	60,000	67,000	△ 7,000
広告料収益	230,000	200,000	30,000
著者負担金益	915,453	984,164	△ 68,711
事業収益	23,117,824	21,629,328	1,488,496
大会運営収入	7,133,557	5,782,084	1,351,473
学術小集会運営収入	15,037,767	13,205,344	1,832,423
環境委員会 収入	946,500	2,641,900	△ 1,695,400
40周年記念事業収益	4,937,000	0	4,937,000
雑収益	255,639	453,071	△ 197,432
預金利息	7,699	7,600	99
雑収益	247,940	445,471	△ 197,531
経常収益計	47,227,634	41,428,001	5,799,633
(2) 経常費用			
会報刊行費	8,053,922	8,637,367	△ 583,445
旅費交通費	39,940	82,840	△ 42,900
通信運搬費	6,706	7,650	△ 944
消耗品費	125,739	119,742	5,997
印刷製本費	6,106,456	6,001,386	105,070
編集費	1,270,128	1,747,714	△ 477,586
学会誌送料	504,953	678,035	△ 173,082
総会・大会費	5,868,216	5,495,416	372,800
学術小集会費	15,401,378	13,121,779	2,279,599
環境委員会	770,446	1,422,790	△ 652,344
H P 管理費	1,142,540	2,605,615	△ 1,463,075
学会賞関係費	476,380	1,020,070	△ 543,690
学術交流費	248,850	319,650	△ 70,800
国際学術交流費	0	0	0
農業科学研究奨励金	1,000,000	1,000,000	0
選挙関連費	270,000	0	270,000
事業運営費	1,409,924	1,212,070	197,854
会議費	683,544	432,990	250,554

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
旅費交通費	726,380	779,080	△ 52,700
管理費	4,199,535	4,435,601	△ 236,066
旅費交通費	117,100	66,100	51,000
通信運搬費	296,017	335,822	△ 39,805
消耗品費	102,349	380,330	△ 277,981
事務管理費	3,334,000	3,310,000	24,000
印刷費	42,000	42,000	0
雑費	308,069	301,349	6,720
40周年記念事業	3,150,000	0	3,150,000
経常費用計	41,991,191	39,270,358	2,720,833
評価損益等調整前当期経常増減額	5,236,443	2,157,643	3,078,800
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	5,236,443	2,157,643	3,078,800
2. 経常外増減の部			
当期一般正味財産増減額	5,236,443	2,157,643	3,078,800
一般正味財産期首残高	39,600,997	37,443,354	2,157,643
一般正味財産期末残高	44,837,440	39,600,997	5,236,443
II 指定正味財産増減の部			
III 正味財産期末残高	44,837,440	39,600,997	5,236,443

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

消費税等の会計処理は税込み方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
積立調整基金口	13,224,379	0	0	13,224,379
国際学術交流基金	13,885,042	3,000,000	0	16,885,042
寄付基金口	7,764,117	0	0	7,764,117
40周年記念事業基金	0	1,787,000	0	1,787,000
合 計	34,873,538	4,787,000	0	39,660,538

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
特定資産				
積立調整基金口	13,224,379	(0)	(13,224,379)	(0)
国際学術交流基金	16,885,042	(0)	(16,885,042)	(0)
寄付基金口	7,764,117	(0)	(7,764,117)	(0)
40周年記念事業基金	1,787,000	(0)	(1,787,000)	(0)
合 計	39,660,538	(0)	(39,660,538)	(0)

財産目録

平成26年12月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目	金額	
(流動資産)		
現金	34,376	
預金	8,481,033	
普通預金		
三井住友銀行白山支店	3,866,058	
ジャパンネット銀行	3,730,673	
CITIBANK	884,302	
振替貯金	752,579	
未収金	1,401,081	
仮払金	988,855	
総会・大会	850,000	
編集事務局	138,355	
デポジット料金	500	
流動資産合計	11,657,924	
(固定資産)		
特定資産		
積立調整基金	13,224,379	
三井住友銀行白山支店定期	13,224,379	
国際学術交流基金	16,885,042	
三井住友銀行白山支店定期	3,000,000	
三井住友銀行白山支店普通	13,885,042	
寄付基金	7,764,117	
三井住友銀行白山支店定期	6,964,117	
CITIBANK	300,000	
ジャパンネット銀行定期	500,000	
40周年記念事業基金	1,787,000	
三井住友銀行白山	1,602,000	
郵便振替	175,000	
現金	10,000	
固定資産合計	39,660,538	
資産合計		51,318,462
(流動負債)		
前受金	6,481,022	
正会員	6,360,000	
学生会員	24,000	
海外会員	57,022	
団体会員	40,000	
流動負債合計	6,481,022	
負債合計		6,481,022
正味財産		44,837,440

III 会計監査報告

平成26年度日本農薬学会の事業報告および決算について監査の結果、的確であることを認めます。

平成27年2月17日

監事 宮本 徹 印  
内田 又左衛門 印

#### IV 議事

##### 1. 平成26年度事業報告および決算の承認

##### 2. 平成27年度事業計画および収支予算（案）

1) 会誌の発行：日本農薬学会誌 第40巻, 第1号～第2号  
Journal of Pesticide Science 誌 第40巻, 第1号～第4号

2) 第40回記念大会の開催：27.3.18～20, 玉川大学（東京都町田市）

3) 日本農薬学会賞および論文賞の授与

##### 4) 専門委員会の開催

- (1) 編集委員会
- (2) 常任編集委員会
- (3) 日本農薬学会賞受賞者選考委員会
- (4) 財務委員会
- (5) 第41回大会組織委員会
- (6) 将来計画委員会
- (7) 環境委員会
- (8) HP委員会
- (9) 農薬科学研究奨励金交付者審査会議（一次および二次）

##### 5) セミナーの開催

- (1) 残留農薬分析セミナー 2015を開催予定（2回程度, 開催地および日時未定）
- (2) 農薬の安全性等に関する講師派遣を予定

##### 6) 学術小集会, 講演会等の開催

- (1) 農薬残留分析研究会：第38回農薬残留分析研究会を農薬環境科学研究会と合同で名鉄犬山ホテル（愛

知県犬山市）において開催。（27.10.15～16）

- (2) 農薬製剤・施用法研究会：第35回農薬製剤・施用法シンポジウムをつくば国際会議場（茨城県つくば市）において開催。（27.10.15～16）
- (3) 農薬環境科学研究会：第33回農薬環境科学研究会を農薬残留分析研究会と合同で名鉄犬山ホテル（愛知県犬山市）において開催。（27.10.15～16）
- (4) 農薬生物活性研究会：第32回シンポジウムを東京農業大学（東京都世田谷区）において開催。（27.4.24）
- (5) 農薬デザイン研究会：第30回農薬デザイン研究会をメルパルク京都（京都府京都市）において開催（27.11.12）
- (6) 農薬レギュラトリーサイエンス研究会：第23回シンポジウムを12月に開催予定（開催地は東京都, 詳細日時未定）
- (7) 農薬バイオサイエンス研究会：第13回シンポジウムを開催予定。（開催地および詳細日時未定）

##### 7) 農薬科学研究奨励金の交付

農薬科学研究に対する研究奨励金を平成27年度は以下の3件の研究に対し交付する予定である。

- (1) 秋月 岳氏（農業生物資源研究所昆虫科学研究領域）：昆虫培養細胞を用いた殺虫剤抵抗性の発現・発達における異物認識特性の解明
- (2) 伊藤晋作氏（東京農業大学応用生物科学部バイオサイエンス学科）：植物寄生センチュウによる植物認識機構の解析研究
- (3) 西脇 寿氏（愛媛大学農学部）：リガンド結合モデルに基づいた新規ニコチンアンタゴニスト剤の創製

##### 8) 日本農薬学会設立40周年記念事業

9) 平成27年度収支予算(案)

平成27年1月1日から平成27年12月31日まで

(単位:円)

科 目	27年度予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
会費収入	17,721,000	17,778,000	△ 57,000	
正会員会費収入	8,800,000	8,872,000	△ 72,000	
学生会員会費収入	116,000	96,000	20,000	
海外会員会費収入	75,000	110,000	△ 35,000	
団体会員会費収入	830,000	830,000	0	
購読会員会費収入	400,000	370,000	30,000	
維持会員会費収入	7,500,000	7,500,000	0	
会報刊行収入	1,040,000	1,210,000	△ 170,000	
頒布収入	50,000	50,000	0	
広告料収入	190,000	160,000	30,000	
著者負担金収入	800,000	1,000,000	△ 200,000	
事業収入	19,634,000	19,208,000	426,000	
大会運営収入	6,010,000	5,600,000	410,000	
学術小集会運営収入	12,955,000	12,955,000	0	7研究会合計
環境委員会 収入	669,000	653,000	16,000	
40周年記念事業収入	2,500,000	0	2,500,000	寄付金
雑収入	108,000	108,000	0	
預金利息収入	8,000	8,000	0	
雑収入	100,000	100,000	0	
事業活動収入計	41,003,000	38,304,000	2,699,000	
2. 事業活動支出				
会報刊行費支出	9,460,000	9,710,000	△ 250,000	
旅費交通費支出	100,000	100,000	0	
通信運搬費支出	10,000	10,000	0	
消耗品費支出	150,000	100,000	50,000	
印刷製本費支出	6,500,000	7,000,000	△ 500,000	
編集費支出	2,000,000	1,800,000	200,000	
学会誌送料支出	700,000	700,000	0	
総会・大会費支出	6,850,000	6,450,000	400,000	
学術小集会費支出	13,908,000	13,908,000	0	7研究会合計
環境委員会支出	662,000	867,000	△ 205,000	
HP管理費支出	1,200,000	1,360,000	△ 160,000	入会案内チラシ
学会賞関係費支出	730,000	500,000	230,000	
学術交流費支出	300,000	400,000	△ 100,000	
国際学術交流費支出	300,000	3,000,000	△ 2,700,000	
農業科学研究奨励金支出	1,000,000	1,000,000	0	
選挙管理費支出	0	200,000	△ 200,000	
事業運営費支出	1,750,000	1,300,000	450,000	
会議費支出	800,000	500,000	300,000	大会会議費込
旅費交通費支出	950,000	800,000	150,000	



(単位：円)

科 目	27年度予算額	前年度予算額	増 減	備 考
管理費支出	4,251,000	4,484,000	△ 233,000	
旅費交通費支出	50,000	100,000	△ 50,000	
通信運搬費支出	200,000	400,000	△ 200,000	
消耗品費支出	150,000	300,000	△ 150,000	
事務管理費支出	3,365,000	3,334,000	31,000	
印刷費支出	50,000	50,000	0	
外部監査費支出	136,000		136,000	
雑支出	300,000	300,000	0	
40周年記念事業支出	4,000,000		4,000,000	記念講演及び祝賀会関係・資料電子化・農業科学研究奨励・農業理解促進HP作製等
事業活動支出計	44,411,000	43,179,000	1,232,000	
事業活動収支差額	△ 3,408,000	△ 4,875,000	1,467,000	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
特定資産取崩収入	0	1,500,000	△ 1,500,000	
国際交流基金 取崩収入	0	1,500,000	△ 1,500,000	
投資活動収入計	0	1,500,000	△ 1,500,000	
2. 投資活動支出				
特定資産取得支出	1,000,000	0	1,000,000	
40周年記念事業基金支出	1,000,000	0	1,000,000	
投資活動支出計	1,000,000	0	1,000,000	
投資活動収支差額	△ 1,000,000	1,500,000	△ 2,500,000	
III 財務活動収支の部				
当期収支差額	△ 4,408,000	△ 3,375,000	△ 1,033,000	
前期繰越収支差額	5,176,902	4,727,459	449,443	
次期繰越収支差額	768,902	1,352,459	△ 583,557	

#### 10) その他

#### 3. 終身会員・顧問の推薦

##### 1) 終身会員の推薦

会則第7条2項により、川端成彬氏、倉橋良雄氏、辻 孝三氏を終身会員に推薦し、評議員会において承認された。

##### 2) 顧問の推薦

会則第16条により、本山 直樹 氏、山本 廣基 氏を顧問に指名し、評議員会において承認された。

#### 4. 日本農業学会第41回大会（平成28年）

第41回大会を平成28年3月17～19日に島根大学（島根県松江市）において開催する。

#### 5. その他

日本農薬学会設立40周年記念行事

会 員 異 動

(平成26年11月16日～平成27年1月15日)

平成27年3月18日(水)午後13時30分より玉川学園講堂において記念式典を挙行政し、午後6時より小田急ホテルセンチュリー相模大野にて記念祝賀会を開催した。

1. 記念式典

(進行 仲下英雄)

開会の辞 米山弘一 日本農薬学会副会長

式辞 浅見忠男 日本農薬学会会長

来賓挨拶:

日本農学会会長 三輪睿太郎氏

農薬工業会会長 神山洋一氏

日本植物病理学会次期会長 寺岡 徹氏

日本応用動物昆虫学会次期会長 岩淵喜久男氏

閉会の辞 輿語靖洋 日本農薬学会副会長

感謝状贈呈:

個人(安藤哲氏氏, 片山新太氏, 塩月孝博氏, 中村幸二氏, 佐藤 清氏, 宮本 徹氏, 石井康雄氏, 千野義彦氏, 竹内安智氏, 加藤保博氏, 齊藤 勲氏, 永山敏廣氏, 岩本 毅氏, 菅原敏夫氏, 星野敏明氏, 片木敏行氏, 丸 諭氏, 永山孝三氏, 坂本 剛氏)  
団体((一社)農林水産航空協会, (公財)報農会, ISO農薬部会, (公財)農学会, 全国農業協同組合連合会, 全国農薬協同組合, 日本農業新聞, 新農林技術新聞社, (一社)Food Communication Compass, (独)国際協力機構)

2. 記念講演会

テーマ「食料生産の未来:農薬との関わり」

司会 三富正明 日本農薬学会副会長

富永 達氏(京都大学教授, 日本雑草学会会長)

「雑草の除草剤抵抗性—そのメカニズムと生活史特性—」

立川雅司氏(茨城大学教授)

「遺伝子組換え作物をめぐる政策の国際動向とその含意」

神山洋一氏(農薬工業会会長)

「農薬産業の現状と将来」

3. 記念祝賀会

挨拶 佐藤幸治 大会組織委員長

若林 攻 大会組織委員顧問

浅見忠男 農薬学会会長

祝辞 日本植物防疫協会理事長 上路雅子氏

祝辞 名誉会員 山本 出氏

挨拶 尾添嘉久 次回大会組織委員長

米山弘一 次期会長

入会

正会員

杉本 幸裕 入江 真理 永田 大貴 宮原 治

小沢 峻 田澤英二郎 戸田 訓博 永野 卓

瀬尾 茂美 和久井康裕 鐘下 伊雄 小杉 正樹

三浦 由夏 後藤 裕子 林 昌平 川戸 伸一

塚田 勇輝 明瀬 智久 網干 貴子 間下大樹志

学生会員

Bao Qilemuge 北野 生薫 山岸 卓矢 坂本 賢昭

熊谷 洋 中崎 翔子

海外会員

ロプケ由佳里 大藤 雅章

(受付順)

退会

名誉会員

栗原 紀夫

終身会員

望月 雅郎

正会員

権田 重雄 平澤 秀弥 百町 満朗 伊藤 一幸

柿谷 均 汲田 泉 増田 幸保 道広 康暉

宮本 康夫 永井 久雄 永山 孝三 小川 和雅

小川 雅男 齊藤 芳宏 鈴木 純二 田中 寛

楯谷 昭夫 田付 貞洋 東谷 唯史 矢口 直輝

吉田 達雄 上田 信次 佐藤 政宏 広瀬 太郎

畑山 正次 浦山 俊一 野澤 清史

YOON, Jung-Min 神長 聡子 眞鍋 勝行

坂元 祥子 篠原菜穂子 北岡 洋平

団体会員

一般財団法人新潟県環境分析センター

学会関連カレンダー

太字は日本農薬学会が主催, 共催, 協賛する会議等

**2015年**

**6月**

12日(金) 構造活性フォーラム2015

主 催: 日本薬学会構造活性相関部会

会 場: 日本薬学会長井記念館 B2階 長井記念ホール

[〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-12-15]

U R L : <http://www.qsarj.org/forum2015/>

## 8月

24日(月)～27日(木) 第18回国際植物保護会議 (IPPC: International Plant Protection Congress)

主催: 国際植物保護科学会 (IAPPS: International Association for the Plant Protection Sciences)

会場: Free University Berlin [Garystraße 35 14195 Berlin-Dahlem/Germany]

URL: <http://www.ippc2015.de/>

## 9月

27日(日)～29日(火) 第43回構造活性相関シンポジウム

主催: 日本薬学会 構造活性相関部会

会場: 新潟日報メディアシップ 日報ホール [〒950-0088 新潟県新潟市中央区万代3-1-1]

URL: [http://www.nupals.ac.jp/~sar\\_symp2015/](http://www.nupals.ac.jp/~sar_symp2015/)

## 10月

15日(木)～16日(金) 第38回農薬残留分析研究会

主催: 日本農薬学会 農薬残留分析研究会

会場: 名鉄犬山ホテル [〒484-0082 愛知県犬山市犬山北古券107-1]

URL: <http://pssj2.jp/committee/zanryu/zanry38.html>

15日(木)～16日(金) 第33回農薬環境科学研究会

主催: 日本農薬学会 農薬環境科学研究会

会場: 名鉄犬山ホテル [〒484-0082 愛知県犬山市犬山北古券107-1]

URL: <http://pssj2.jp/committee/kankyo/kanky33.html>

15日(木)～16日(金) 第35回農薬製剤・施用法研究会

主催: 日本農薬学会 農薬製剤・施用法研究会

会場: つくば国際会議場 [〒305-0032 茨城県つくば市竹園2-20-3]

URL: <http://pssj2.jp/committee/seizai/seizai35.html>

23日(土)～25日(日) 植物化学調節学会第50回記念大会

主催: 植物化学調節学会

会場: 東京大学弥生講堂

URL: <http://www.jsrjp.org/calendar/years>

## 11月

12日(木) 第29回農薬デザイン研究会

主催: 日本農薬学会 農薬デザイン研究会

会場: メルパルク京都 [〒600-8216 京都府京都市下京区東洞院通七条下ル東塩小路町676番13]

URL: <http://pssj2.jp/committee/design.html>

## 12月

15日(月)～20日(水) Pacificchem 2015 (The 2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies)

主催: The American Chemical Society (host society)

会場: Honolulu [Hawaii, USA]

URL: <http://www.pacificchem.org>

## 2016年

### 3月

17日(水)～19日(金) 第41回日本農薬学会大会

主催: 日本農薬学会

会場: 島根大学 [〒690-8504 島根県松江市西川津町1060]

URL: <http://pssj2.jp/congresses/thisyear.html>

### 学会主催会議等の詳細

第38回農薬残留分析研究会

第33回農薬環境科学研究会

(合同開催)

主催: 日本農薬学会 農薬残留分析研究会 農薬環境科学研究会

日時: 平成27年10月15日(木)～16日(金)

会場: 名鉄犬山ホテル [〒484-0082 愛知県犬山市犬山北古券107-1]

TEL: 0568-61-2211

<http://www.m-inuyama-h.co.jp/>

交通: 名鉄「犬山公園」駅より徒歩8分(名鉄名古屋駅から犬山公園駅まで28分)

URL: <http://pssj2.jp/committee/zanryu/zanry38.html>

<http://pssj2.jp/committee/kankyo/kanky33.html>

※平成27年度は、農薬残留問題を農薬使用、環境動態、農薬残留の実態調査、分析法の検討と結果の評価など、広い視点から捉えるため、農薬残留分析研究会と農薬環境科学研究会を合同で開催し議論を深めます。シンポジウムのテーマ、参加申し込み等の最新情報は、ホームページならびにPSSJ News Letterにて、順次ご案内致します。

### 【問い合わせ先】

一般財団法人残留農薬研究所化学部 飯島和昭

TEL: 0297-27-4516 (ダイヤルイン)

FAX: 0297-27-4517 E-mail: [ijijima@iet.or.jp](mailto:ijijima@iet.or.jp)

第35回農薬製剤・施用法研究会

主催: 日本農薬学会 農薬製剤・施用法研究会

共催: 農業食料工学会, 日本雑草学会, 粉体工学会, 日本

化学会, 高分子学会, 色材協会, 日本油化学会  
日 時:平成27年10月15日(木)~16日(金)  
会 場:つくば国際会議場 [〒305-0032 茨城県つくば市  
竹園2-20-3]  
TEL: 029-861-0001 FAX: 029-861-1209  
<http://www.epochal.or.jp/>  
交 通:つくばエクスプレスつくば駅A3出口徒歩10分  
U R L : <http://pssj2.jp/committee/seizai/seizai35.html>

プログラム:

10月15日(木) 13:00~17:30

(特別講演1)「日本における作業安全性評価の現状と課題」

松井美樹(農林水産省 消費・安全局 農産安全管理課)

(特別講演2)「Application Technology in EU/Global (low water volume application, drift less nozzle, etc)」

Reinhard Friessleben (Bayer CropScience AG/Application Technology)

〈懇親会 18:00~20:00〉

10月16日(金) 9:30~16:00

(特別講演3)「農薬等の田植同時施用技術の現状と今後の展望について(仮)」

小林鑑明((株)クボタ 移植機技術部 第1チーム長)

(特別講演4)「我が国における生物農薬開発の現状(仮)」

藤田俊一((社)日本植物防疫協会 業務執行理事)

参加申込み方法:

所定の参加申込書に, 所属, 氏名(フリガナ), 連絡先等の必要事項を明記の上, 平成27年6月30日(金)までにファックス, E-mailまたは郵送で下記にお申込み下さい。なお, 発送事務等の省力化のため, 会社・事業所・研究機関等の単位で代表者が取りまとめた上で, 一括してお申込み下さるようお願い致します。大会運営の都合上定員になり次第, 締め切らせていただきますので, お早目の申込みをお願いします。申込み期限を過ぎますと, 早期割引料金が適用されませんので, ご注意ください。

- ・参加申込書: 別紙1 (<http://pssj2.jp/committee/seizai/seizai35.html>)
- ・申込み先: 東邦化学工業(株) 追浜研究所 農業助剤研究室内  
第35回農薬製剤・施用法シンポジウム事務局  
参加申込担当 種 和彦宛

〒237-0062 神奈川県横須賀市浦郷町5-2931

TEL: 046-866-5736 FAX: 046-866-5731

E-mail: [seizaisympo@toho-chem.co.jp](mailto:seizaisympo@toho-chem.co.jp)

参加費:

(1) 6月30日までに申込みの早期割引料金

- 1 日本農薬学会及び協賛学会(協会)会員の場合  
16,000円(内 研究会費9,000円, 懇親会費7,000円)
- 2 上記学会の会員でない場合  
17,000円(内 研究会費10,000円, 懇親会費7,000円)

(2) 7月1日~当日参加申込みの通常料金

20,000円(内 研究会費13,000円, 懇親会費7,000円)

尚, 一日のみの参加, 及び懇親会の参加有無にかかわらず, 参加料金は一律(研究会費+懇親会費)です(振込手数料につきましては別途負担となります)。

参加費振込:

参加申込み後は, 下記, 振込み口座に参加費をお早めに振込み頂きますようお願い致します。尚, 一度振込まれました分は返金できませんのであらかじめご了承下さい。ご入金確認後に, 折返し参加確認および参加費振込確認を送付致します。参加申込書(別紙1)にてお受け取り方法をご指定ください(E-mail, FAX又は郵送)。尚, 参加申込・入金確認書をもって領収書とさせていただきます。

・振込み先: 三菱東京UFJ銀行 駒込支店(店番号061)

普通 口座番号: 0020365

口座名: 農薬製剤施用法研究会(ノウヤクセイザイセヨウホウ ケンキュウカイ)

技術研究発表・ポスターセッション申込み:

技術研究発表・ポスターセッションは農薬製剤・施用法全般に関するものとします。

技術研究発表: 15分のプレゼンテーション後, 5分質疑応答

ポスターセッション: 5分のショートプレゼンテーションの後, ポスター展示にて行います。

発表を希望される方は, 希望発表形式(口頭あるいはポスター), 演題, 発表者, 所属等を所定の申込用紙(別紙2, <http://pssj2.jp/committee/seizai/seizai35.html>)に記入の上, 6月30日(金)までにファックス, E-mailまたは郵送で下記にお申込み下さい。また, 発表希望者は[技術研究発表要領](別紙3, <http://pssj2.jp/committee/seizai/seizai35.html>)により作成した発表要旨を7月31日(金)までに郵送またはE-mailで送付して下さい。尚, 技術研究発表・ポスターセッションを希望される方も別途参加申込みが必要となります。前項「2. 参加申込み」を参照ください。

- ・発表申込書：別紙2を参照ください
- ・技術研究発表要領：別紙3を参照ください
- ・送付先：日産化学工業(株) 物質化学研究所内  
第35回農薬製剤・施用法シンポジウム事務局  
技術研究発表担当  
釜谷拓和 宛  
〒274-0069 千葉県船橋市坪井西2-10-1  
TEL: 047-465-1116 FAX: 047-467-5307  
E-mail: seizaisympo@nissanchem.co.jp

宿泊等：

事務局での宿泊手配は行っておりません。つくば駅周辺のホテルにつきましては、つくば国際会議場のホームページ (<http://www.epochal.or.jp/>) に会議場周辺のホテルの宿泊ガイドがございますので、ご参照ください。早めの宿泊予約をお奨めします。

問合せ先：

[参加申込, 参加費に関するお問合せ]

東邦化学工業(株) 追浜研究所 農業助剤研究室内  
第35回農薬製剤・施用法シンポジウム事務局  
参加申込担当  
種 和彦宛  
〒237-0062 神奈川県横須賀市浦郷町5-2931  
TEL: 046-866-5736 FAX: 046-866-5731  
E-mail: seizaisympo@toho-chem.co.jp

[技術研究発表及びプログラムに関するお問合せ]

日産化学工業(株) 物質化学研究所内  
第35回農薬製剤・施用法シンポジウム事務局  
技術研究発表担当  
釜谷拓和宛  
〒274-0069 千葉県船橋市坪井西2-10-1  
TEL: 047-465-1116 FAX: 047-467-5307  
E-mail: seizaisympo@nissanchem.co.jp

[その他, シンポジウム全般に関するお問合せ]

上記の種 和彦 宛または釜谷拓和宛にお願いします。

## 日本農薬学会設立40周年記念事業への寄付のご報告とお礼

謹啓

日本農薬学会の会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さてこの度は、「日本農薬学会設立40周年記念事業」の募金に対するご寄付・ご協力を賜り誠に有難うございました。総額7,827,000円（団体等 6,000,000円，個人 1,827,000円）の募金をお寄せいただきました。募金の趣旨に則り，今回ご協力を賜りましたご寄付の一部を国際学術交流費，学会設立40周年記念講演会および祝賀会の開催に使用させていただきました。今後は，既刊学会誌等の電子ファイル化，農薬科学研究奨励，農薬理解促進活動等に有効に使わせていただきたく存じます。記念事業の進捗状況につきましては，学会ホームページおよびニュースレター等にてお知らせいたします。

設立40周年を契機として，人類と社会の将来に貢献すべく農薬科学のさらなる発展に尽力したく存じますので，今後とも当学会へのご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。

謹白

平成27年5月吉日

日本農薬学会  
会長 米山弘一

春に新幹線が金沢まで延びた。全国に張り巡らされる車窓からは，多数の穀倉地帯を含めて各地の水田を短時間のうちに見渡すことができる。見えない区間は大宮-新横浜，新大阪-新神戸くらいであろう。季節は“玉苗植うる夏は来ぬ”で，本州では既に田植えも終盤近く水面は緑に輝くが，九州ではしばらく先の地域も多い。収穫の秋は地域差が更に大きく，新幹線網を利用してそれを眺めるのも面白いに違いない。何かのキャンペーンではないが，長距離の出張を鉄道に換え，地域で異なる折々の農作業風景と季節を同時に感じるのもお奨めである。

さて，4月より役員等の体制も一新されたが，今号では，昨年度の報告に加えて新年度の小集会の予定が掲載されている。今後の計画立てに活用されたい。

発行所：日本農薬学会

〒114-0015 東京都北区中里2-28-10

一般社団法人日本植物防疫協会内

TEL: 03(5980)0281 FAX: 03(5980)0282

E-mail: nouyaku@mocha.ocn.ne.jp